

H24-B14-2 深度49.24~49.55m 最新活動面の走向・傾斜 (No.82) の見直しに伴い, 条線方向 (No.83) を変更

- H24-B14-2孔 深度49.26mの断層面の走向・傾斜はN21°W21°E ※であり, 条線観察は下盤側から実施している。※破碎部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから, 同一ボーリングコアの他の不連続面と本破碎部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用

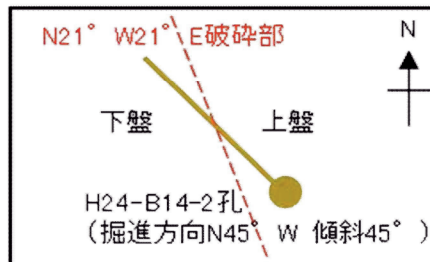
コア写真



凡例

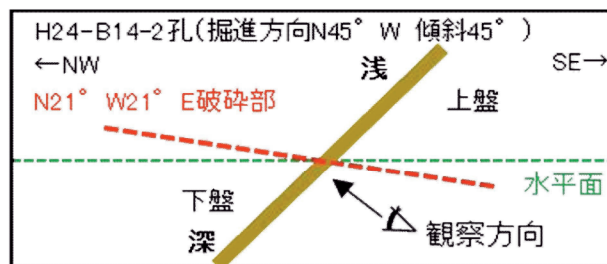
- 条線観察位置
- 断層カウジ
- 破碎部範囲※1
- 最新活動面

※1: 写真上は白色で記載



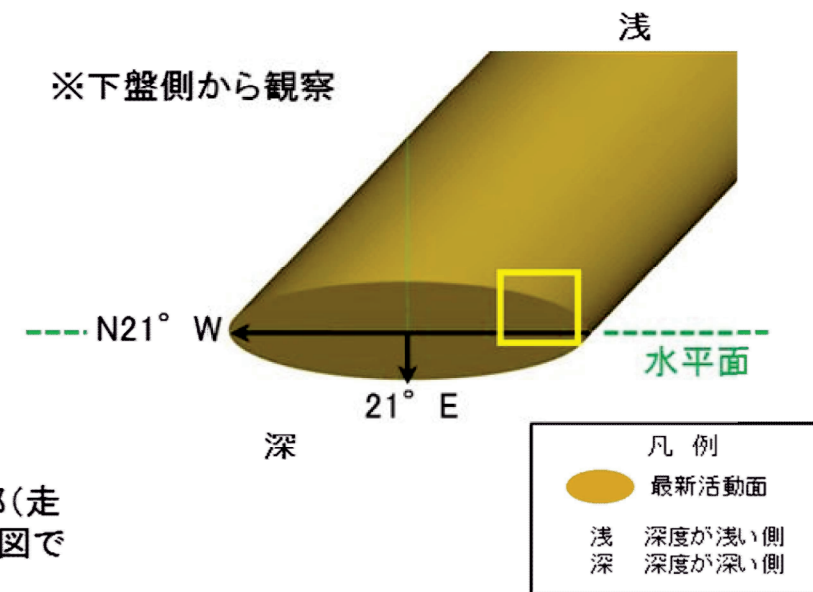
・ボーリングは掘進方向N45° W, 傾斜45° で掘削している。
 ・破碎部の走向・傾斜はN21° W21° Eであり, ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。
 ・破碎部は東傾斜であることから, 西側が下盤, 東側が上盤となる。

図1 H24-B14-2孔位置平面図(模式図)



・ボーリング(掘進方向N45° W, 傾斜45°)と破碎部(走向・傾斜N21° W21° E)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
 ・ボーリング孔の浅い側が上盤, 深い側が下盤となる。

図2 H24-B14-2孔を通る断面図(模式図)

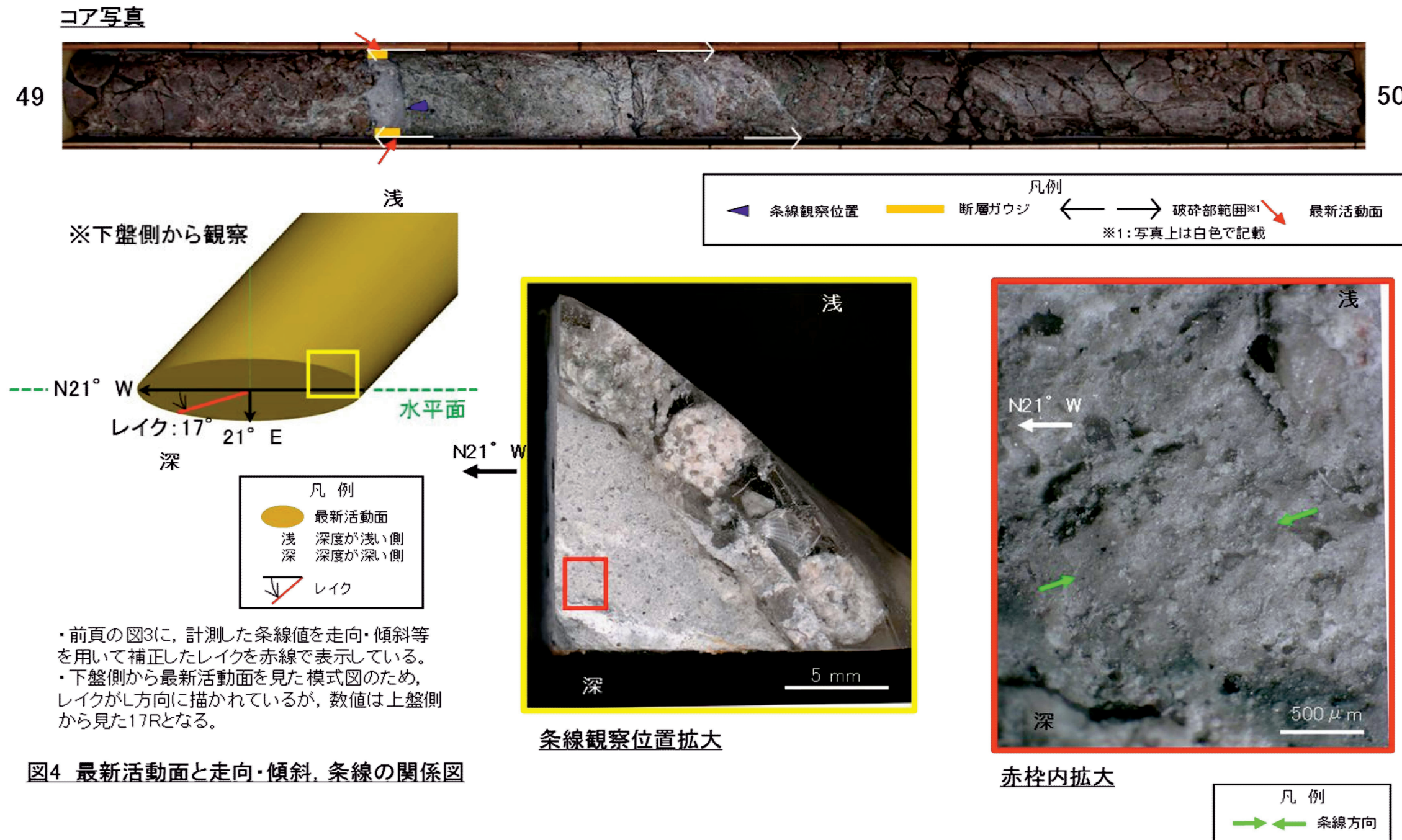


※図2で示した観察方向から, 最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

H24-B14-2 深度49.24~49.55m 最新活動面の走向・傾斜 (No.82) の見直しに伴い, 条線方向 (No.83) を変更

- H24-B14-2孔 深度49.26mの断層面の走向・傾斜はN21°W21°E ※であり, 17Rの条線が認められる。※破碎部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから, 同一ボーリングコアの他の不連続面と本破碎部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用



H24-B14-2 深度49.24~49.55m 最新活動面の走向・傾斜 (No.82) の見直しに伴い, 条線方向 (No.83) を変更

- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例
 ← → 破碎部範囲※
 ※: 写真上は白色で記載
 ↘ 最新活動面

研磨片作製位置



青枠部拡大

0 5 cm

凡例
 ↘ 最新活動面

研磨片写真(コア向き, 斜めから)



0 5 cm

凡例
 ◀ 試料切断方向

試料切断面



0 5 cm

凡例
 ↘ 最新活動面

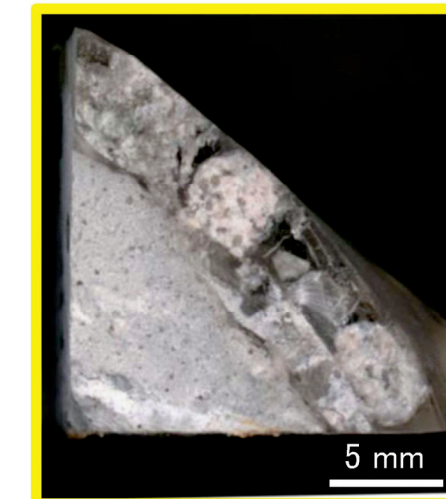
条線観察位置



0 5 cm

凡例
 ▶ 条線観察位置

条線観察位置拡大



黄枠部拡大

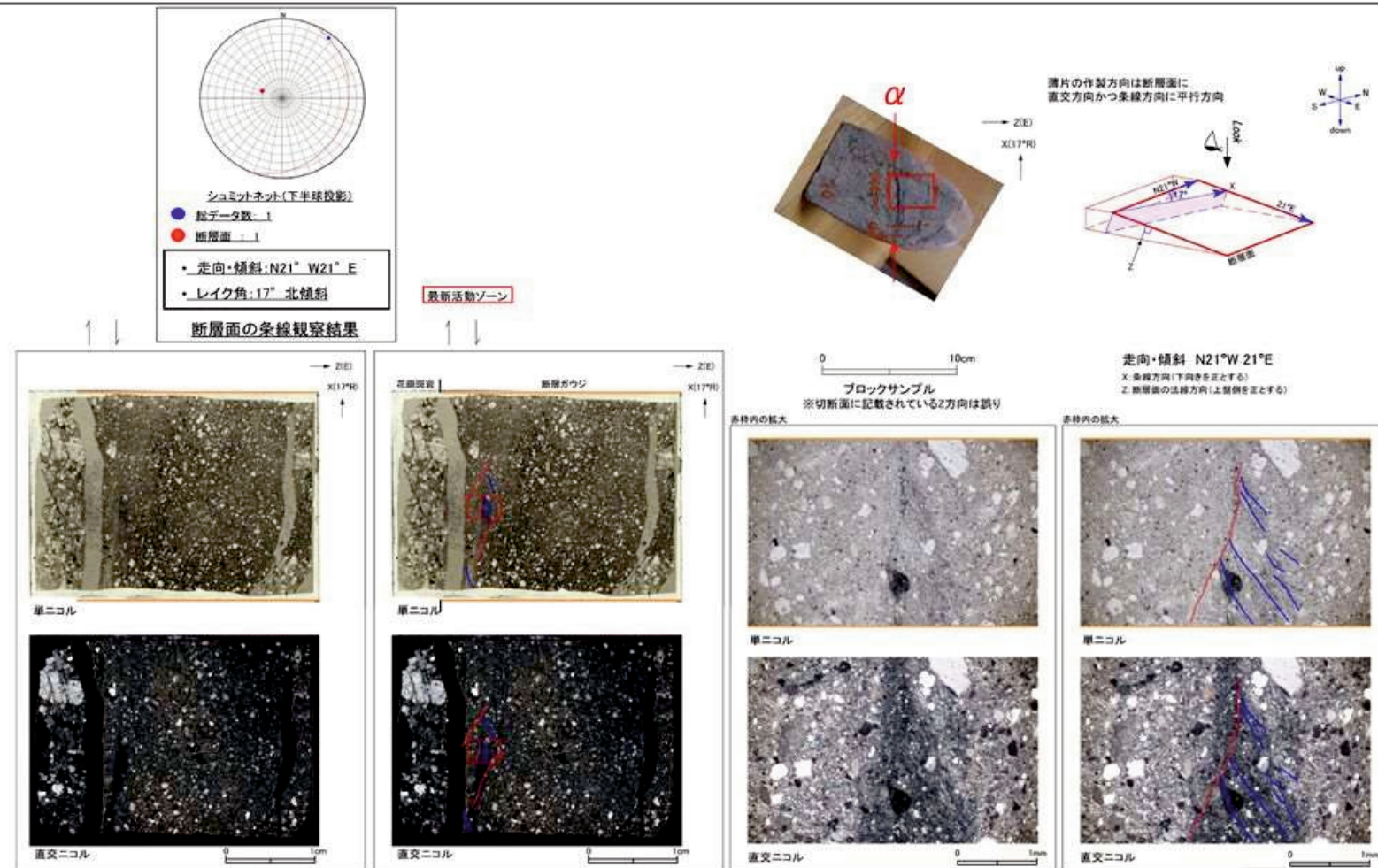
5 mm

H24-B14-2 深度49.24~49.55m 最新活動面の走向・傾斜 (No.82) , 条線方向 (No.83) の見直しに伴い,
最新活動面(深度49.26m)の変位センス (No.84) を変更

- 薄片試料の観察自体は適切に実施されていたが、走向・傾斜 (N44E80E→N21W21E) , 条線方向 (75L→17R) が変更になることにより、条線方向が低角度に変更となるため、変位センスは右ずれセンスに変更となる。

H24-B14-2 深度49.24~49.55m 薄片観察 変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3)

- ・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)組織は周囲と漸移的である。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。



※破砕部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから、同一ボーリングコアの他の不連続面と本破砕部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用している